

Living My Dream Life

in ふじのくに

誰もが夢を実現できる
静岡県



東南アジア9カ国をまわった時、タイのムエタイ選手をとらえた谷本さんの作品。



祈りを捧げるムエタイの選手。谷本さんの作品には神聖な静謐さも息づいている。



W杯日本対アイルランド戦のワンショット。勝利の瞬間、世界中が「シズオカショック」に驚いた。

昨年のラグビーW杯で、数々の感動的なシーンを撮影し、改めてその迫力を多くの人に伝えたカメラマンの谷本結利さん。動画よりもむしろ動きを感じる谷本さんの作品には、選手の気迫や息づかいも見えてくる。

幼少期の谷本さんは引っ込み思案だったという。「1歳上の姉に付きまといながら背中に隠れている子でした」。そんな少女を変えたのがラグビーだった。「テレビでラグビーの試合を見て、なんて美しいだろうと。特にバックスのラインやフォワードのスクラムが本当に綺麗で」。

地元の高校に進学した谷本さんは写真部に入部し、自発的にラグビー競技場へ通いながら夢中でシャッターを切り続けた。やがて協会職員から声をかけられ、ヤマハスタジアム(磐田市)で「ヤマハ発動機VSサントリー」の試合を撮影する機会にも恵まれた。

高校卒業後に進んだ写真の専門学校時代、谷本さんは半年間で東南アジア9カ国を回り、プロカメラマンとしての基礎を築く。「撮影交渉なども一人でこなす必要があったので引っ込み思案の性格が直りました」。

現在は名古屋に拠点を置き、世界中を飛び回っている。「地元を離れてしまった私から静岡を見ると、地元で働いている人がカッコよく見えます。その人たちの行動が街をつくり、街を活気づけているので。そんな地元の力を私も写真で伝えていきたい」と谷本さん。そのピュアな審美眼は、これからも静岡の魅力を捉え続けるに違いない。

地元で働いている人って
カッコいいですね。



フリーカメラマン

たに もと ゆう り

谷本 結利さん

静岡市生まれ。中学3年の時に当時日本代表だった大畑大介さんをテレビで観たことからラグビーに出会い、高校1年の時からラグビーを撮り始める。日本写真芸術専門学校卒業後、朝日新聞出版の契約社員カメラマンとしてインタビュー、ポートレート、料理、店舗など様々な撮影現場を経験。2011年にフリーランスになってからはスポーツの現場に仕事を寄せている。日本スポーツ写真協会会員。